

# 平成 31 年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	3	講習名	【選択】国語科教育に活かす古典文学研究の成果（1）				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
西本 寮子	広島キャンパス	6 時間	中学校・高等学校 国語科教諭	30 人	講義	筆記	
開催日	8 月 3 日（土）		予備日	8 月 5 日（月）			
<b>【到達目標】</b> 日本の古典文学について、中国文学との関係に基づき、その特質を理解している。							
<b>【講習の概要】</b> 言葉の持つ価値への認識を深め、言語文化に対する理解や関心を育てることに重きを置く新学習指導要領を踏まえ、「言語文化」や「古典探究」の授業づくりに活かせる古典文学研究の最新の成果を紹介しながら、「日本における古典知の形成と展開」について考える。『枕草子』や『源氏物語』など教材として取り上げられることの多い事例に基づき、中国文学の摂取と定着の様相について、『白氏文集』に焦点を当てて分析し、考察する。演講義 4 においては演習を交える予定。							
<b>【講習の内容】</b> <b>講義 1：王朝人の教養基盤（1）—「月を見てものを思う」ことを起点として</b> 平安時代の文学作品を読む際には漢詩文や和歌の知識が欠かせない。漢詩は暗誦され、そのまま取り入れられるだけでなく、形を変えて和歌や物語文学に取り込まれた。この講義では、新しい息吹としての外来文化・中国文学の享受と多様な摂取の様相を、『白氏文集』に焦点をあてて眺めてみたい。ひらがなの普及とともに広がりを見せた王朝の知識人の文学的想像力と創造力について、『竹取物語』『古今和歌集』を例として考える。							
<b>講義 2：王朝人の教養基盤（2）—コミュニケーションを支える知識と応用</b> 共有された知識と身につけた教養はどのように活用されたのか。『枕草子』を宮廷女房の記録と捉え、教科書に取り上げられる話を含むいくつかの章段を読み解きながら考える。清少納言と男性知識人との会話から読み取れる、権力社会を生き抜く際に活用された教養と応用力について理解を深める。							
<b>講義 3：王朝人の教養基盤（3）—『源氏物語』が拓いた世界</b> 『源氏物語』に認められる白詩摂取の方法は一様ではない。共有される知識を利用して読み手の想像力をかき立て、ことばがもつ力によって新たな世界を切り拓いていった『源氏物語』の卓越した創造力について、具体例に基づいて考える。併せて、物語世界の背景に垣間見える歴史との交錯について紹介する。							
<b>講義 4：ことばが紡ぎだす世界の理解に向けて</b> 『源氏物語』の達成はその後の知識人の教養のあり方に少なからぬ影響を与えた。つくり物語としての享受を越えて学問の対象となり、ジャンルを越えて文芸の世界に広く浸透していった。古典文学に対する理解を深めるための授業実践例の紹介と演習を交え、受け継がれてゆく古典知について考える。							
<b>【備考】</b> ・試験の際には、講義で配布した資料、ノート、電子辞書を含む辞書の持ち込みを認めます。 ・講習 4 と合わせて受講することで、より理解が深まります。							

